NO. **813**

平成 30 年 ●発行 ●編集 総務部秘書広報課 9月15日号

この広報紙は、環境に 配慮したバージンパルプ を使用しています。



●発行日 毎月1日・15日 $\mp 289 - 1192$

千葉県八街市八街ほ35番地29

八街市

☎ (043) 443 − 1111 (043) (043) 444 - 0815

ホームページ

カタログボケット このアイコンを http://www.city.yachimata.lg.jp/

推る進い

千葉県明るい選挙シンボル

キャラクター「せんきょ君」

朝夕はめっきり涼しく、過ごしやすくなりましたので、スポーツなどで体を動かしてみませんか。

11月18日田は、 八街市長選挙・八街市議会議員補欠選挙の投票日です

任期満了に伴う「八街市長選挙」と欠員に伴う「八街市議会議員補欠選挙」 が11月18日(日)に行われます。

市政を託す人を選ぶ身近な選挙です。棄権することなく、投票しましょう。 11月18日(日) 午前7時~午後8時

期日前(不在者)投票

睛11月12日(月)~17日(土) 午前8時30分~午後8時

場市役所第4会議室

期日前投票

場

内

内

対

員

費

用

申

申

L

込

Z

締

め 切

り

持

持

物

問

問

61

合

わ

せ

FAX

4

4 4

0

8

1

5

期間・会場については、決定次第お知らせいたします。

八街市長選挙・八街市議会議員補欠選挙 立候補予定者説明会などのお知らせ

《立候補予定者説明会》

睛10月11日休 午前9時~

場市役所第1会議室

※出席者は立候補予定者1人につき2人以内です。 ※届出用紙などを配付しますので、受領される方は 印鑑をお持ちください。

《立候補届出書類事前審査》

時11月1日休 午前9時~正午

場市役所第1会議室

※事前審査を必ず受けてください。

《立候補受付》

時11月11日(日) 午前8時30分~午後5時

場市役所第1会議室

みんなできれいな選挙を推進しましょう

立候補届出前の選挙運動は事前運動に該当し、 禁止されています。また、選挙運動期間中であっ ても次のような行為は禁止されています。

戸別訪問の禁止

候補者、運動員に限らず、すべての方が選挙運 動のための戸別訪問をすることはできません。

署名運動の禁止

選挙に関し、投票させることまたは、させない ことを目的に行う署名収集は一切できません。

通常はがき・ビラ(文書図画)の頒布の制限

選挙運動のために頒布することのできる文書図 画は、候補者1人あたり市長選挙8,000枚、市 議会議員補欠選挙 2,000 枚の通常はがきと、市 長選挙は選挙管理委員会に届け出た2種類以内 のビラ(選挙管理委員会の証紙を貼った物)16,000枚、 それ以外は頒布できません。

飲食物の提供禁止

選挙運動に関し、誰に限らず、どのような名目 のものであっても飲食物を提供することはでき ません。ただし、湯茶や通常用いられる程度の 菓子を提供することや、選挙運動期間内に限り 候補者が選挙運動員や労務者に対し、定められ た金額の範囲内で弁当を提供することはできます。

気勢を張る行為の禁止

選挙運動のため、自動車を連ねたり、隊列を組 んで往来することによって、気勢を張る行為は、 誰に限らずできません。

間選挙管理委員会事務局

☎ 4 4 3 − 1 1 1 3

種類	手数料		請求できる方
住民票の写し (全員・個人)	1通	300 円	その住民票に 記載されている方
戸籍全部事項証明書 (謄本・抄本)	1通	450 円	その戸籍に 記載されている方
除籍謄本・抄本 改製原戸籍謄本・抄本	1通	750 円	その戸籍に 記載されている方
戸籍の附票の写し	1通	300 円	その戸籍に 記載されている方
印鑑登録証明書	1通	300 円	本人のみ (印鑑登録証が必要)
所得証明書	1通	300 円	本人のみ
課税(非課税)証明書	1通	300 円	本人のみ

1 1 1 6

3

ドカパ ース 在ドポ 留・一 カ住ト

☎課務☎市民さ

1

1

2

0

4課明4課・

関 3

係

1 を行は 限おう ド基マ運点おい、交りり証八/ な本イ転で持ま郵付まで明街山街を祝前曜 ど台ナ免良ちす便申すす書山田山除日9~ 帳ン許いくの局請 カバ証もだで窓・ 11・**の**さ ,口 受 い次でけ の本取 い人り ず確す れ認る かを際 〕民・

戸

証

関

係

の田台田く 種台1台

街け

請類郵2郵 月午日 求は便7便 29 後 者、局番局 日 4 は左で地) 時 本表取2 1 人のり 月 にと扱 3 置くすはな※く場 住だが受い本だ合印金健点る官

八八日

険な 証も

、 、 け方人さは鑑証康**必**も公 八付や確い、登書保**要**の署 街け、認。印録)険な。発 4税証4民票い八付や確い 。印録 認 • 市ま代の 鑑証 登明学 役せ理書 所ん人類で。にを 録書生年 証を証金 請およお も請な手 お求ど帳 求手る持 し数請ち 持する で求で

発 行 0 顔 写 真 貼 付 0

、午月

時金交田 12 (曜 付台 請郵 求便 受 け住 り票 がの で写 **き** đ

知 号の見方一時 症 高 命 者等 日 時 を か 会 か 場 え る家 内 容

族

交

流会

を

開

催

• • • • •

気

対

対

象

定

定

員

費

費

用

申

申

L

込

2

X

締

め

切

り

持

持ち

物

問

問

e V

合

わ

せ

FAX

4

4 4

0

8

1

5

物置 持う 0 介ひ ちい と を ほぐ のり

捜し物をする。時には誰 とい、追い込まれるよっ 「同じことをすぐに忘れる で、一間でことを何度も聞く で、一間でことを何度も聞く で、一方でで、一方ででである。 はい、追い込まれるよっ で、一方でである。 はしい、追い込まれるよっ はしい。」 のいに いる。」 0

農 地 介 護 者家 族 0) (1 方

ってこし 時 7 ことをご 対場 申定 ☆ 地 15 者 認 総 午 9 み 4域人 知合後 (家症保127せ話 族の健時日ん) 人福30(株)か、 近の人を介護する に使福30(木)か。気持りです。 には、みや負担にする が、気持担にする を介護する を介護する を介護する を介護する。 支 夕 軽感く

分

介

護

事準基

をや準建

進手法物

4 包 集 3 括 1 援 2 セ 0 > 7

からのい ま 振た 興い 地担 域い 内手 のに 行 ま 会 希いた、 が た、賃料の徴収が農地の受け手 ま 手を探します 収·支払 かも

望

が

11

る

場

合

着

地し規

を付模

探けを

大

L

| | 法人千葉県園芸協会(農 | 本のでいる。」「畑をやいる。」「相続したい。」など | 本のでいる。」「畑をやいる。」「相続した農地の | 大のでいる。」「畑をやいる。」「相続した農地の $\frac{1}{3}$ 要の園たもでたう個でなった でたけ協えし、相 ま合法件 申す。 、人を 協千満 請 力葉た が 金県し 必

3地社地貸め管え

法あた

0中団のし

理

2

て理て

水にい農

0

人千

あ がとうござ (1)

文 五区カラオケモ ケ愛好会御一同样のための指定寄せ 様付 ょ ŋ 2 万

市外局番(043)

青街 野産 落花 茂 様生 当みの促 進 0 ため の指定寄 1 付 0 0 万 円

15 5 21 は 違 反 建 築 防 止 週 問 C व

す。

建築基準法では、建物の敷地や構造などに関めの敷地や構造などに関めます。

はまざまな基準を定めている。 んめていたの物の生 まる建命安 け安は、 この ま 全 L よもの うの建工 で物事 あがが

る頃

世めましょう。子続きを守り、適伝などの法令で定 適定は、正め、 正に工基築 よう 適 合 4市お点し

問 ☎都

震 診 断 • 3 0

0 耐 補 上設上助耐 金震 申改請修 を 受事 0 ф

受う人築がある。 交耐着31業 付震工日 診さ以 ま断れ前 すをたに 。 行個建

· 補 上 耐 5 付 方 の 不満切り捨て) 万円 の名分の2以内で

工る事 0 宅工 5 **浦** 未 、 着 31 **助** 着 31 助 耐工日事 つ (、た倒震さ以業 1も壊診れ前 交 ・のの断たに 付りをおの個建

間 ま 算 ※ 請 修 ※ ※ ま

で工

き事

でませずを行いれていませんが申

各

た金せ行

 λ_{\circ}

達補

し助

時の

終了

市

画

4 計

3

4

3

0

費額程数 00分の23以内で

分 0) 2 以 内 で

添 項 うえ、 L 請 。類 要 を事

行っていた場合は申、耐震診断・耐震改申請をしてください。 点受 件 数 は 、没

な り予 まに守こ 事口 よと の秋故は日 り正時のの 通交、シがれが 事通交 I 予時急

家 庭 3 0 減 化にチャ レンジしよう

だに法さ相令 に法 査基た る談に 受きき が 表 の 、 現 在 住 を 保 進 す る た お ま で で 付 しま す る た か ら 出 さ れ さ た せ で の しま す 。

る法完か令

L

か検に

て築物

く士が

を容 設器 置・

してい ない。

ごみ 理後の生ごみを自ら処理み処理機を維持管理できる。ごみ処理容器・電気式生

処理後の できる。

4 費 30 分 0) 2 以 内 で

入助法所円6費 未万の万の万 都満円3円3円

申受 市切 計り 画 捨 課て

1 で す本すジ配申えを各**込付**(上監上設上で人。か布請て記補**方場**千限理限計限 らす書提 ダるは出の金 ウほ ンか都てく ↑市計だ添書 ドホ画さ付に 1課い書必 B でム窓 きペロ

す通す全。事。国 国 9 故ま交月 死た通21ゼ、安日 ゼ、安日ロ9全金 を月運り 目 30 動 30 指目が日 す(日)行(日) 日はわ _ れ 秋

にのル控まのま 努実のえす交る ☆佐飲用ヤ全止自夕通行子動 倉酒のイ座 8 警 運 徹 ル 席 4 察転底ドの 署の シシ 卜

通 に使 つ 止

4

9

3 7

(7)

自転車乗車中の交通事故防夕暮れ時と夜間の歩行中・通事故防止行の確保と高齢運転者の交子どもと高齢運転者の交子ともと高齢者の安全な通動の重点目標 交通

交通事故防 歩行中・ 防

シシート 卜 のべ 正ル エしい着

伝 板

時 八 八街

原 2 性央前週 **ク** 4 口間会心則午毎**街**午毎 5 の公10 水ラ 4 い金者小後週**中**後週 久 0 み民時曜ブ3 英合・歓学 7 木**学** 7 月 で以上8 り。 ・ 時 30

分

問 費 ※ 対 だり。 い詳 細

7 6

女中午毎ガ☎山お入初原 館与日 11 時 30 分

 $\frac{0}{9}$ 0 -3433 - 8298子 0

円

知

玉 労 全間

んろ今労10成 なと年働月30 で か度衛1年 進らの生日度 めだス週(月)全 働性 - ○日**働** き康ガン。旧**億** 改くは は 革り ፟ 集 ※ 時

日

時

会場

容

対

対

定

定

員

費

費

用

申

込

Z

締

め

切

ŋ

持

持

問

合

わ

せ

間をのて的訓緊事で商図向、な練急業労する な時 ょ 労 一観光課 と 労働 電 出 の 災害 う衛の管場。生労理に を 生労理に想 意働活お定 13 識衛動け L 向 巡 の 高 生 通 を 通 に 主 施 け 視

時

がた

かつくる。

大

切

が

10 **合**延午 10 月 **場**期前月 10所の821 日 (水)八合 (旧)力 関(日) 清 掃 前

演**場 時**き催挙 **印 車**※ が町あ**題**成午10ましの政**旛** ☎八掃 4 街除 4市用 3 社 意してあります。 7 8 議 会

ま推着 を 選 す。 を識選 般的向関 に上係 方海に大きり 公会を開選の 受講 で

試

田後月 国 2 3 際時日 文 (水) 化 3 会時館30 分

講 か衆な まち、

受

間受 できない場 数 があります。 0) さ当い日 場 合 会

旛☎印講 0 西 4 7 6 市選挙管理委員会事務! -33 - 4676

た時 9 1 武出師 (広子 市酒 栄直 町片 杭

は30月0田山 E分180 メ〜百人一耕 1 午(火) ル後か先へ印 で5ら着佐西 申時平順倉市 しに日 込電午 み話前。まる ま 8

所問

seikatsukankyo@city.sakura.lg.jp 水設備工

間10料 4で月公2

日相 5 (月)談 |

1

証公公(月)談

開証一は

相証証(所6

任技 術者 共 通 試

試 千 験 平 験

健 医 療 派センタ

限円者定工 年す

日 を 除

申 〒請て1便しに※ 申 申受 受 「込千千2求く4番、「郵千込(10込験ど歴道まれ成子 方葉葉葉6先だ0号送葉書出版をに排れた11格 で 送票市市 0 で 送票配・5配 有よ水た11格 下没中 | い分住条望下布日日布1すり設方年 水所央8 であり水場曜金期万る一備で1 水所央8 でありますが場曜金期万る一備で1 水所央8 でありますが場間金期万る一備で1 が下区7 では同・世界では、月 · · 請方道所日 同 13 求は協 たラベ 到して請求し 以名)と切手 たラベル (郵 か」と朱書き と封務 書の局

務営 1 局課

を 事 務 局 13 郵 送

業 ※

車夕

場 ゥ

はござい

し月 -葉県下 日 印 水所央8道下区7 事経港

申で 本詳10込申所込千千千2**求** 受し定 く11付込の法県市市0 は日期み書、休限。類 ·水道 有

8 市み 4 役 4 生い 2 活**合** 7 環**わ** 8 境せ 課先

千

下

水

道

協

証 4 県

水野な佐し 道 se. 4 倉込

会成日 月 12 日 (土)

時まよし週 10 するて間

無

料成す。

公田

よ水た11**格**総 り設方年 一備で1 1 、月 の事修13 経に学日 験関歴以 前 数る下に

当日 封氏 旧印有 消

協水千2 会道葉2 内 1 年年係厚**務**専ス成 金金の生**内**用カ田 ね日 相相届年客駐イ市 花咲

☎協

3 1

1

4 1

6

な保

ど険、

受国

付民

· 年

0

時分トれし 午月室成るで年前曜)田方い金 佐原年金曜 (祝日、12 (祝日、30 (祝日、12 (記を除く) 12 (記を除く) 12 (記を除く) 日、30曜月 1230曜月 1270年 1200年 12 事 ・テライ 務 29 所 日 ·後 5 成 1 5 田 成 1 時 分 田 月 15 室

ま せ 1 N 不

田

合 相金 間間※・譲 ☎商で品白り 4工調物色ま 4 観整のの 3光し確木 ル課 にてください。 などは、1 8 情

当ッ事ト 者

くをご覧く FAX 談談書金 は 混

4 4 4

Z

談役週7**を**1 所場間日<mark>開</mark>1 会 を公の(日)設2 事 務 局

事

前に予約

を

設人環公 書かすしす を用意してくの(年金手帳・は、基礎年金番

れ住境町売が

(月) 5 23 日 (火)

宝くじ 売

園の割配※ 抽 発 発ま民対村 10 ハ **間 予**だ年号 おあ 、購合は収10選全売10売すの策のこ月ハロ☆幕☆約さ金の予願り 公入に都益月日国場月期 °福、明の1ロウ2張0受い証わ約いま 間の割配※ 会公入に都益月日国場月期 財によ道金30 の所1間 千協た県各伙 葉力め別都県く、の道 県市町村振り ・ださい。 ・千葉県内の ・大ださい。 興 での分

を相具らか話談 販談の けで員

入額訪康

れ電営業を

ま合料っでマれ円金れのス数

な問に

し関

てする

注い具隠商い療員持

さ健販談の

事せ康売が購高業た相す寄入額

う 目

的

で 寄せられて 寄せられて おるを勧め

61

ます。

ど送入し

てら用

をし品

7

た相り談

を

試

Ĺ

な L

よ が ら 近

でづ器を

の近

者も

かど

電悪

がと

え突こ

か例

つ品か品電意て ぱのをの話がく り 購 確 販が必る

購入、自宅への来 確認し、必要なけ 販売を目的として として の要です。

7

有

コサイト

が未

料員

のバ

談

訪れい点

をばな

やな選

S どし Mのた

S心の

トな

メル

ツ

がもらえ

うのな

来け

ぱのをの話が

FAX

4

4

4

0

8

1 5

安心な市民 (生活を 応

安全・

お気軽にご

かいの渡 るなさ 8 契いれ 日約正て

ത 庭話 用題 電に 気治療器具であれての 販の

持

たと へきオあ受載場 ごはフるけが合契 さ費のは でク セ困リ

選 5万円の支払

相早が場取なや約数なで合うさ、書 5 っン以書しい たグ内面いな で を記い

反あを銭安

のます。メルのに連絡をし

たりっしてしてしてしてしてしてしてしてしてしてしている。

い相相※うはが報金ま熟談。反あを建

応

な

七言われたまた

気日治後

器男の性

座り、験目

に男

らたれるがあれるが

方の

指導に

行く」

伝

がし断を宅となまりさに言

いっき

言 10 一

たれ間週円

いたは間

日 1

が使で契

円し

しだ

当

用は約

対る果て

のたれらで。ずれ、

38

万 時

で

6

間

B

居

座

ま談談

イ

b

すの事相

ア例談

ドの員

バほの

掲類イ

かア

にドババ

そ号券ペわは信選 ほ支求のををイれ登しし何のは し払が後写コド、録たた度メな 録たた度料。かも も真ン型指料 かも り手にビ電示1当も届 数撮ニ子さ万選し 相 益☎談午午祝設街 全社 4 専後前日日市

リよンう

の生 9 相活 4 談相 9 無 談 0 員 協

日**国団**4月19· 消費 曜消法3電時年毎費 日費人 | 話 | | | | | | | | | | | |

4 正年月**活** 2 相時午始曜セック 除金夕 く曜【 日

しまう、個人 ぐに 載似乙 人 削 容危 は、 た よに険情

4 0 5

8月18日生、第27回八街ふれあい夏まつりが開 催されました。

当日は、爽やかな風が吹くなか、けやきの森公 園のメイン広場では、八街産落花生無料配布やラ イブ、ヒップホップダンスなどが披露されました。 夕方からは、さらに多くの方が来場し、模擬店は どこも大行列でした。また、「八街ドント踊り」な どの納涼踊りでは、たくさんの方が参加し、活気 あふれる夏まつりとなりました。













原子力災害におけるひたちなか市民の



茨城県東海第二発電所で、重大な原子力災害が 発生し、または発生するおそれがある場合に備え、 7月24日(火)印旛地域振興事務所において、本市を 含めた県内10市町と「原子力災害におけるひたち なか市民の県外広域避難に関する協定 | を締結し ました。

この協定は、原子力災害などで、ひたちなか市 が避難対象となった場合、一部の市民を受け入れ、 避難初動時における避難所の開設・運営などを協 力するものです。